

動物行動生理学研究室

教員名：岡田二郎

● どんな研究をしているところ？ どんなことに役立つの？

無脊椎動物は地圏および水圏のありとあらゆる環境に適応して生きており、極めて多様に分化していることから、最も繁栄したグループの一つです。無脊椎動物は比較的小さなものが多いですが、彼らにもしっかりと脳神経系があって、環境からのシグナルを感じ取り、それを処理し、適応的に行動することができます。

私達の研究室では、昆虫やその他の節足動物を材料として、行動をつかさどる脳神経系のはたらきと、人間が環境に放出する化学物質の関係について調べています。この研究は、環境化学物質が生態系へ及ぼす影響について、我々が改めて考えてみる機会を与えるものと期待しています。以下に現在おこなっている研究の一部を紹介します。



コオロギの学習行動に対する 環境中化学物質の影響

コオロギは高い学習能力を示すことが知られていますが、河川環境中でよく検出される医薬品が学習能力に影響を与えることが分かりました。

大気環境が昆虫行動に及ぼす影響
大気中に含まれる化学物質をコオロギに投与すると、様々な行動に異常が起こることが明らかになってきました。



カニの各種行動に対する 環境中医薬品の影響

河川で検出される医薬品が干潟に生息するカニ類の行動に対して及ぼす影響を調べています。

● 先輩はどんなところに就職しているの？

公官庁、農業協同組合、金融関係、各種販売業などです。